

平成27年度第2回川西町総合教育会議 議事録

1 日 時 平成27年12月22日(火)  
開会 午前10時30分 閉会 午前11時38分

2 会 場 川西町中央公民館 403号室

3 出席委員 川西町長 原 田 俊 二  
川西町教育委員会  
教育委員長 佐 藤 富士雄  
委員長職務代理者 山 田 一 郎  
教育委員 奥 山 雅 広  
教育委員 齋 藤 聡 子  
教 育 長 小 野 庄 士

4 事務局 教育総務課長 緒 形 信 彦  
まちづくり課長 鈴 木 浩 之  
教育総務主幹 有 坂 強 志  
子育て支援主幹 高 橋 久 子  
指 導 主 事 船 木 智 幸

5 協 議

- (1) 川西町教育等の振興に関する大綱(案)について
- (2) その他

6 議事の概要

- (1) 開会(事務局)
- (2) あいさつ  
原田町長
- (3) 協議

原田町長が座長となり、次の協議を行った。

- ① 川西町教育等の振興に関する大綱(案)について、資料により事務局説明し、次の協議を行った。

〈座長〉 ただいま、資料に基づき事務局から「教育等の振興に関する大綱(案)」、同大綱の概要及びアクションプランの説明がありましたが、前回の会議から練り直した部分もあり、前回いただいた、どのようにして町を担っていく人間、リーダーを育てていくか。などについても反映させていただいたところです。

また、具体的に推進するアクションプランは、数値目標なども設定し

ながら、今後の予算編成と照らし合わせながら決定してまいりたいと考えたところですが、一気に目標達成とできるか課題として残るわけですが、目標を明確にして取り組んでいきたいと考えているところです。

事務局からあった説明について、ご意見等いただきたいと思います。

〈佐藤〉 前回の案では、基本理念・目標が8項目あったものが5項目にまとめられ、さらに個々の施策についても数値目標が示され、整理されたものとする。

何点か質問だが、1点目は大綱の概要で、かわにし未来ビジョンの視点が前回は、左から「ちいきづくり」、「ひとづくり」、「しごとづくり」であったが、今回は「ひとづくり」、「ちいきづくり」、「しごとづくり」となっており、そこから矢印で「基本理念・目標」へと結んだ場合、真ん中に記載される「ちいきづくり」が最優先の視点と捉えられかねないと感じるが、表し方としてももう少し工夫した方が良いのではないかと考える。

2点目は、大綱の基本目標2の中で、「本町の資源を活用した読書活動や芸術活動を教育課程に取り入れ、「川西らしい」教育の充実に努め、」とあるが、この「川西らしい」という部分は具体的にどのような内容が想定されるか。例えば、施策の柱に「読書活動の充実」とあるが、川西町では、このような活動を通して読書活動に力を入れていくのだ。というような具体的なものがあれば、それが「川西らしさ」に繋がっていくのではないかと考える。

3点目は、基本目標2が「人間としての思いやりを持ち、コミュニケーション能力を持った人間形成を育みます。」とあるが、文言としては、「人間形成を図ります。」「人間形成に努めます。」などの方が適していると考えますが、いかがでしょうか。

4点目は、基本目標4が「健やかな心と体を育み、明るく健康的な生活を営もうとする人間を育成する環境をつくります。」とあるが、大綱では、環境づくりを主とするものではなく、人間を育成することを目標とするべきであることから、文言の修正を行った方が良いと考える。

5点目は、アクションプランの中で学校の授業時間以外の学習時間について、現在の割合をより高めるということで目標設定しているが、学校側の意見を聞くなどして設定するというのも必要ではないか。

〈事務局〉 1点目の未来ビジョンの視点については、未来ビジョンに合わせて並べ替えを行ったところであるが、見方によっては、そのような誤解を生じさせてしまうことが懸念されることから、表示方法については、事務局で精査させていただきたい。

2点目の「川西らしい」については、本町には遅筆堂文庫、フレンドリープラザといった施設、また井上ひさし先生の故郷といった他市町には無い財産等があることから、来年度策定する川西町読書推進計画においても、それらを最大限活かした読書活動を行っていくという事を想定

している。

3点目、4点目の「人間育成を育みます。」「環境をつくります。」の表現については、ご指摘いただいた点について精査し、修正させていただきます。

5点目の学校の授業時間以外の学習時間の数値目標については、全国学力学習調査の結果をもとに現況値を把握し、設定したところです。

〈佐藤〉 学校の授業時間以外の学習時間の数値目標の設定については、学校現場で唐突感を生じさせないように配慮が必要であるし、意見を聴取するなど押し付けとならないようにしてほしい。

〈座長〉 学年、時期等によっても家庭での学習時間には差が生じると考えられるので、年間の平均で算出する等の、工夫が必要と思われる。

〈齋藤〉 小学生では、学年数かける10分を家庭学習時間の目標とするところもあり、2時間以上というのは、非常に大きな目標であると思う。

〈事務局〉 全国学力学習調査では、小学生部門では1時間以上2時間未満の区分が約6割と一番多くなっています。2時間以上の部分が全国と比較しても本町の割合が低いことから、2時間以上3時間未満の割合を高めようと目標設定したところです。

中学生部門においても1時間以上2時間未満の区分が約8割と一番多くなっていることから、同様に2時間以上3時間未満の割合を高めようと目標設定したところです。

〈山田〉 大綱については、様々な内容が網羅されており、現状と課題が大綱を策定する基本であるが、切実な想いが感じられないため、もっと明確な現状分析が必要ではないかと感じる。

〈事務局〉 大綱策定に関しては、国の振興計画を参酌して策定するよう指導もあったことから、国の計画を大きく逸脱した内容とはできないため、町独自の課題等に深く踏み込んだものではないかもしれませんが、よって、独自の課題等に対しては、アクションプランにより対応すべきと考えたところです。

〈座長〉 大綱を策定した後の対応が非常に重要なことであり、教育現場の意見も取り入れながら、大綱の基本目標達成に向けてアクションプランの見直しを随時行い、推進していかなければならないものとする。

〈佐藤〉 今、山田委員から大綱の意義、位置付けについて意見があったところだが、そもそも法律の改正により、町長の意向が反映されない大綱策定とはならないわけだが、上からの押し付けではなく、現場の意向も十分考慮した内容でなければならぬと思う。よって、大綱はこのとおりで良いと思うが、アクションプランで具体的な数値目標を設定するのであれば、現状の分析、教育現場の意向なども十分配慮すべきである。

〈座長〉 地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、川西町の教育、

学術及び文化の振興に関する施策を総合的に推進するため、また、かわにし未来ビジョンとの整合性も考慮したうえでの大綱となることから、総合的な内容となり、個別的の具体的な内容はアクションプランに表記されたものである。

川西町独自の資源、特色などについて事務局でも考慮されたところだが、やはり、プラザ、遅筆堂文庫は他市町には無い強みであると考ええる。先月女性議会があり、委員の方々と話をしたときに、「我が家には、本がたくさんある。図書館に行けば、たくさん本を自由に読むことができ、図書館が我が家の本棚のようだ。」という意見を聞き、なるほどと感じたところであるが、その中で、「せっかくあれだけ素晴らしい施設があり、様々な行事が開催されていても参加者が少なく、非常にもったいないと感じる。」との指摘もいただいた。

そういった点も踏まえて、本町の資源を最大限活用しながら、学校とも連携して特色ある教育等の振興に努めなければならないと考える。

〈奥山〉 子ども達のライフスタイルも大きく変わってきており、家庭環境も変化している。家庭教育という意識が薄れ、学校への過度な期待も見受けられる。その中で、この大綱の意義を学校、地域、住民にいかに浸透させるかということが重要だと考える。

基本目標1に「まちづくりのリーダーとなる人材を育成します。」とあるが、PTA活動などでは、役員等なかなか引き受けていただけない状況であり、毎年役員が変わるため、継続性、持続性の確保が難しい。よって、まちづくりのリーダー育成というのは、非常に重要であると感じた。

〈座長〉 当初、大綱のみお示ししてきたところだが、多くの皆さんにご理解いただくためには、数値目標等を示した方が良いでしょうと見え、アクションプランを作成していただいた。本プランの内容が全てとは考えてはいないが、毎年実績等を把握し、その都度見直しを行いながら進めていかなければならないと考える。

また、本町で率先して取り組んでいるコミュニティ・スクールは、地域と学校がいかに連携し、より良い学校運営、そして地域づくりにつながっていくかと考えているところであり、大きな期待をしているところである。

〈齋藤〉 大綱が住民に浸透して、町の取り組みを理解していただき、地域、学校、家庭が連携しながら進めば良いと思う。子ども、孫が学校に通っている間は子育てに関心があっても、卒業してしまうと意識が薄れるという事になってしまうが、そのようにならずに、継続して子ども達に対して何かできればと考えている。

また、最近心が弱い子どもが増えているように感じている。家庭でのふれ合いが少ないことが原因ではないかと考える。地域で子どもを

育てるという意識、環境づくりが必要ではないか。

〈座長〉 女性議会の委員の方から、「最初は、大変で引き受けた事を後悔している。しかし、こんなに川西町のことを考えたことは無かった。今では、町の仕組みなども知る事ができて、本当に良い機会であったし、今後も町に対して関心を持ち、係わっていきたい。」という話をされた方がおられた。そういった機会を持ってもらうということが、非常に大事なことだと感じたところである。

心が弱いということに関しては、子どもに限らず大人にも言える事ではないか。大変忙しい、複雑な社会環境の中で、対応していく力を育む事が必要なのではないかと考えている。

〈小野〉 本で、「日本の再興は教育が握る。」との記事があった。学校を地域に戻して、地域の子どもは地域で育てるという情勢を作っていかなければならないと考えている。

今回、この大綱を策定し、住民に浸透させるとともに、住民の民度を高めるために、教育、人材育成、まちづくりへとつなげていければ良いと考えているところである。

今後選挙権が18歳に引き下げられ、主権者教育の必要性も謳われているところであり、学校教育においても中立性を確保しながら、選挙に関しての教育を行っていく必要があり、それは、民度を高めるということにもつながっていく。

〈座長〉 私としては、教育に求めるのは、しっかりと学習し、大きな人間となって、地域に帰ってきて、まちづくりを率先する人材を育ててほしいということである。

〈佐藤〉 大綱は、町長が定めるものであるから、町長の意向が大きく反映されてしかるべきものであると考える。中立性を保つために、私たち教育委員がチェックをするということも必要と考えている。

それから、先ほども申し上げた事だが、かわにし未来ビジョンの視点の表示の仕方については、再考をお願いする。

〈座長〉 川西未来ビジョンを策定する協議の中でも、一番重要なのは「ひとづくり」であり、ひとがあって「ちいきづくり」が成り立ち、「しごとづくり」が進められると考えたところであることから、表示の方法については、再度事務局と詰めていきます。

〈佐藤〉 先ほど、女性議会の方から、最初は引き受けないほうが良かったが、そういった機会を与えられたことから、まちづくりへの賛同者となった事例を紹介いただいたが、非常に大事な事だと考える。

様々な委員会、協議会、役員など、これまで硬直化している状況があり、同じ人が様々な委員となっていたと思う。今後は、様々な人材を発掘し、機会を与えることにより、まちづくりへの賛同者、協力者が増えていくと考えられることから、ぜひ取り組んでいただきたい。

〈座長〉 では、大分時間も経過したことから、大綱については一部文言の修正、表示方法を精査させていただき、策定とさせていただきます。  
協議については、以上とします。

② その他  
特になし。

(4) その他  
奥山委員から、放課後児童クラブの需要が増えている状況、指導員の苦勞など紹介があり、町でフォローする部分があれば良いとの意見あり。

(5) 閉会 午前11時38分